

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>①単元末テストの結果、ひらがなの読み書きに課題がある。</p> <p>②単元末テストの結果、筆圧が弱い、字形を整えることができなかつたり、マスの中に文字がおさまらなかつたりする課題がある。</p> <p>③単元末テストの結果、話の聞き方（姿勢や話を遮らずに最後まで聞く等）や話の内容の大体を聞き取る力に課題がある児童が2割である。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがなのミニテストを継続して行い、習得状況を形成的に評価しながら個別に必要な指導を講じる。例えば、定着しづらい児童には、あいうえお表を見ながら文字を覚えられるように助言したり、短い日記や絵日記など文章を書く機会を多く設定する。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科では、空書きや指書きをさせて、動作化を取り入れた指導を行うことで感覚を養う。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせや、指示を伝えた後に内容を確認する問いかけを行う。聞くことへの意識付けを行うことで、よい聞き方の習慣化を目指したり、聞いたことを書き表す機会を作ったりすることで、話の大体をつかみながら聞く力を養う。（聞くテストで80点以上8割を目指す。）</li> </ul>
算数	<p>①単元末テストの結果、数の概念理解や足し算、引き算の定着に課題がある児童は学級の1割である。</p> <p>②単元末テストの結果、2割の児童に具体物から抽象化して図や数として表したり、文章問題を読み取って場面を理解して正しく立式したりすることに課題がある。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数の概念の定着や足し算、引き算の定着のためにブロックなどの半具体物の操作を十分に経験させる。（単元テストの知識理解の分野で8割以上の正解がクラスの7割を目指す。）</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読解し、正しく立式するために、何算になるのかのキーワードを見付けたり、場面をイメージして図や操作と結び付けたりする指導を継続して行う。（テストの思考判断の分野で8割以上の正解がクラスの7割を目指す。）</li> </ul>
体育	<p>①1学期の授業から、基礎的な動き（走る、跳ぶ、投げる、リズムよく動く等）の獲得や個々の体力（続けて運動できる時間や、力強く動くこと等）に個人差がある。</p> <p>②1学期の授業から、ルールを理解できず、うまく活動に参加できない児童が学級の2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの運動も運動量を確保できるよう場や教材を工夫し（できるだけシンプルであったり、多様な動きを引き出せたりするもの等）、基礎的な動きを十分経験できるようにする。</li> <li>・校内研究とも関連して、「挑戦することを楽しむ」ことができるような運動遊び（ゲーム性をもたせたり、自分たちで工夫することを楽しめたりする運動遊びなど）を多く経験させられるようにする。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいやルールが簡単なものから段階的にステップアップする単元構成を取り、実際に経験しながらルールを理解し、どの子も運動の楽しさを味わえるようにする。</li> </ul>
道徳	<p>①1学期の授業から、話のあらすじを捉えられず、ねらいとする価値項目から離れてしまうため、価値項目についての考えを深めたり、自分の経験と結び付けたりしながら考えることが難しいという課題がある児童が学級の2割程度いる。</p> <p>②1学期の授業から、登場人物をもとにした価値項目についての話合いの後、その内容を自分の経験や心と結びつけて振り返ることに課題がある児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を活用して資料を提示したり、適宜挿絵を足したりすることで話の大体を捉えられるようにする。また、登場人物の気持ちに自我関与させ児童がじっくり向き合える発問を工夫し、ねらいとする価値についての理解を深められるようにする。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値項目について、学習をする前の自分と学習した後の自分の気持ちを比較したり、ワークシートに自分の気持ちを書いたりして自分を見つめる時間を毎時間十分に確保する。</li> </ul>

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>①漢字テストの結果やノートへの記述から、学習した漢字の活用能力に課題がある。そのため、作文や日記等では、既習の漢字を使用せず平仮名を使って書いている児童が5割程度いる。</p> <p>②1学期の授業や単元テストの結果から、語彙が不足しているため、自分の考えや気持ちを聞き手に伝わるように話したり、文章で適切に表現したりすることに課題がある児童が3割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字学習において書きの練習だけでなく、読みの習得が確実にできるように読む練習を取り入れ、読めて書ける力を養う。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日記を書く学習を続け、書き慣れていくことで文章力を高める。また、読み聞かせや読書の時間を確保することで、語彙を増やし、文章表現の手本をインプットしていく。互いの日記を読み合うことで、よい表現や新しい言葉にも触れることができるようにする。</li> </ul>
算数	<p>①1学期の授業や単元テストの結果、たし算やひき算の定着に課題がある。指を使ったりアレイ図を用いたりして答えを確かめる児童が2割程度のため、抽象的な事象を具体化し題意を捉えた上で立式する手順の定着に課題がある。</p> <p>②単元テストの結果、時間と時刻を区別して理解したり、時計を見て時刻を答えることに課題がある児童が3割程度いる。</p> <p>③1学期の授業や単元テストの結果、既習事項を基に考えたり、図や言葉を用いて立式の根拠を表現したりすることに課題がある児童が4割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じてブロックなどの半具体物による操作を十分に経験させたり、10のまとまりを意識して計算する練習を重ねられるように授業の冒頭で計算練習に取り組みせたりする。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数の授業はもちろん、他の教科の指導時間においても日常的に、アナログ時計やそれに準じた教具を用いて時間と時刻を読み取る活動を毎日行う。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「教える内容」と「考えさせる内容」を区別して毎時間授業構成を工夫する。特に後者の内容においては、児童一人一人が思考を表現する活動を設けたり、文章と図や操作を結びつける活動を十分行わせたりする。</li> </ul>
体育	<p>①1学期の授業から、体を巧みに動かしたり、「手を叩きながら、ジャンプする」ような2つの運動を同時に行なったりすることに課題がある児童が2割程度いる。</p> <p>②1学期の授業から、自分の動きのよさに気が付いたり、友達の動きのよさを取り入れようとしたりすることに課題がある。さらに、体力テストの結果から、運動することが苦手、まあまあ苦手と回答する児童が1割いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業冒頭で、帯活動を取り入れる。(本校全体で取り組んでいるパワーアップタイムや、鬼遊び、じゃんけん列車、動物歩きなど短時間で繰り返し取り組める活動など。)</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>苦手、やや苦手と回答する背景を探り、どの子も意欲的に取り組める活動を取り入れる。また、タブレット撮影機能を活用して、自分の動きを見る機会を増やしたり、「遊びの工夫タイム」を設け、友達の動きのよさをもとに、楽しい遊びを見つけられるようにする。そうした活動を通して、「全員ができた」「全員で楽しめた」活動を目指す。</li> </ul>
道徳	<p>①1学期の授業から、友達と話し合いをする際に友達の発言を受けて自分の考えを再構築することに課題があり、自分が話したいことのみを話し、ねらいとする価値項目の理解が深まらない児童が4割程度いる。</p> <p>②1学期の授業から、自分の考えと友達の考えと比較したり、自分の考えを変容させたりすることに課題があり、自分の考えをもつことに終始してしまい、道徳的実践意欲や態度を身に付けるまでに至らない児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳ノートを活用して「書く」活動を毎時間取り入れることで、自分の心に向き合う時間を毎時間設定する。それを通して、学級での話し合いをもとに考えたことを表したり、その時間に扱う道徳的価値にかかわらず思考を深めようとしたりする力を育てられるようにする。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で考える時間に加えて、ペアや立場の似た児童同士、立場の異なる児童同士で話し合う活動を取り入れ、多角的な見方、考え方に触れることができるようにする。</li> <li>毎時間1回以上は一人一人が考えを表出できる活動を取り入れる。</li> </ul>

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>①令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、2年生までの既習漢字を、正確に書いたり読んだりすることに課題がある児童が3割程度いる。同じ割合で、3年生の漢字についても、「止め」「はね」や画数などを正確に覚えること課題がある。</p> <p>②令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、思いや考えを、単語ではなく、相手に伝わる文章で表現することに課題がある児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得にかかわる学習時間を十分にとり、身に付くまで丁寧に指導する。(毎時間、授業開始10分間を漢字学習の時間とし、漢字小テスト8割の定着を目指す。)</li> <li>モジュールの時間を活用して、進出漢字だけでなく既習の漢字を復習する時間を確保し、繰り返し練習することで、漢字の定着を図る。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語の授業において、書いて表現すること、話して表現すること、聞いて表現の仕方を学ぶことの3つを授業展開の中に位置付けることで、表現力を高めることができるようにする。</li> <li>日記を書く活動を常時活動として位置付けることで、表現することに対するハードルを下げるとともに、表現力を身に付けることができるようにする。(宿題、体育日記を週2回など)</li> </ul>
算数	<p>①令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、既習事項を基に考えたり、図や表に表したり、それを相手に伝えるように表現することに課題がある児童が4割程度いる。</p> <p>②令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、九九の習得に課題があり、九九を用いてわり算を解くことに時間がかかる児童が4割程度いる。</p> <p>③令和6年2月実施の市学力定着度調査の結果、「時こくと時間」の区別に課題がある児童が7割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章と図や操作を結びつける活動を十分に行わせたり、考えを記述させたりする活動を繰り返し行う。(各単元1回以上)</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の開始5分を使い、ガンガンドリル(計算反復練習)に取り組む。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の事項についても復習できる時間を設定する。反復練習させるだけでなく、具体物・半具体物を操作したり、絵や図、数直線に表したりする時間を確保する。</li> </ul>
体育	<p>①1学期の授業から、自分の学習課題を把握することに課題がある。</p> <p>②1学期の授業から、鉄棒運動の支持系の基本的な技の定着に課題がある。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標や身に付ける技能を先に示し、自分の課題を見付けやすくする、</li> <li>自分の動きをタブレットで録画して客観的に見られるような場を設定し、自己の課題を把握できるようにする。</li> <li>教員による模範を動画を撮影し児童の一人1台端末から正しい動きをいつでも確認できる環境にすることで、正しい動きと自分の動きとの違いを捉えやすくする。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄棒カードを継続して準備し、休み時間などにも行えるようにする。</li> <li>体育の授業の開始5分間を使った帯活動(サーキット練習)において、腕支持の動きを取り入れる。</li> </ul>
道徳	<p>①1学期の授業での発言やノートの記述から、教材に出てくる人物の心情や様子などを考え理解することはできているが、自分自身のことに置き換えて考えることが難しい児童が3割程度いる。</p> <p>②1学期の授業での発言やノートの記述から、ねらいとする価値項目について、教材で考えたことを自分自身のことに置き換えて考えることが難しい児童が3割程度いる。</p> <p>③1学期の授業から、自分の考えに自信がもてず、発言者に偏りが生じる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分事として考えられるように、教材を扱う前に、価値項目に関わる「これまでの経験」や「今の価値観」を表出できる発問を取り入れる。また、児童の実態に合った資料提示を毎時間工夫する。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを交流する際、共感した時は頷く、人の考えに言葉を返す等の反応の仕方を身に付けることができるように指導する。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三色の三角コーンを使用することで、自分の立場を表明したり、同じ意見をもつ友達や異なる意見をもつ友達からそう考える理由や根拠を伝えたり聞いたりしやすい環境づくりをする。</li> </ul>

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>①漢字ミニテストや確認テストでは各学級平均点が80点に達しないことから、新出漢字だけでなく、既習の漢字も間違えて覚えたり、正確に書くことに課題がある。また、ノートへの記述や作文から、既習の漢字を使う習慣の定着にも課題がある。</p> <p>②ノートへの記述や作文から、思いや考えを適切な文章で表現することや、接続詞や形容詞、副詞を正しく使うことに課題がある児童が4割程度いる。</p> <p>③単元テストの結果から、文章を正しく音読したり、内容の大体を読み取ったりすることに課題がある児童が3割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字は、その字がどのような部分で構成されるかを確認させたり、適切な練習方法を習得させたりしていく。</li> <li>・授業中のノート指導では、既習の漢字を使うよう、添削やこまめなチェックなどを行う。(漢字ミニテストや確認テストでは、各学級の平均点が80点を超えられるようにする。)</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の授業で、自分の考えを表出させる場面をできるだけ毎時設定することに加え、文章を書く活動を教科横断的に取り入れ、文章を書くことに慣れることができるようにする。(体育日記を週に2回程度、週末の日記など)</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で積極的に音読を取り入れ、読む力と読み取る力を高めることができるようにする。</li> <li>・隙間読書を推進(テスト後や給食準備時間等)すると共に、読んだ本を記録する取り組みなど、本に親しむ機会を多くもてるようにするすることで、読むことへのハードルを下げることができるようにする。</li> </ul>
算数	<p>①単元評価テスト平均点76%という結果から、かけ算九九、かけ算の筆算、引き算の筆算の習得に課題があることが原因で、わり算の筆算が不正確だったり、時間がかかったりする児童が4割程度いる。</p> <p>②単元評価テスト平均点74%という結果から、分度器の使い方や、角度計算の理解に課題がある児童が3割程度いる。</p> <p>③1学期の授業から、既習事項をもとに考えたり、それを、図や言葉を用いて表現したりすることが難しい児童が3割程度いる。</p>	<p>①～③に共通する手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で繰り返し練習の時間を確保する。</li> <li>・個々の理解状況に応じて、既習事項の復習を適宜行う。</li> <li>・問題解決型の学習過程を授業で多く取り入れ、その中で必ず、既習の内容や図・式・表を使った考えを使う機会を多く設定する。</li> </ul>
体育	<p>①1学期の授業から、ほぼ全員が意欲的に体育の学習に取り組んでいるが、自分や自分のチームがどんな力を身に付ける必要があるか、そのためにどのような練習をする必要があるかが、十分に意識できていないまま運動に取り組んでいる児童が半数近くいる。</p> <p>②1学期の授業から、学び合いの中で、自分の考えや意見を伝えながら、課題解決に取り組む姿が少しずつ増えてきている。</p> <p>③1学期の授業から、自己課題を把握するための、ICT機器の効果的な活用が十分にできていない。</p>	<p>①②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何ができて、何ができていないかを意識できるよう教師が声掛けしたり、振り返る観点を示して、児童同士で振り返ったりすることで、課題が明確になるようにする。また、練習の場の意図をしっかりと理解して活用できるよう、学習資料・動画などを活用し、ポイントを意識して運動できるようにする。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己課題を把握するための一つの手立てとして、ICT機器を活用して動画を撮影して考察する時間を確保し、全ての児童が自己課題に気が付けるようにする。</li> </ul>
道徳	<p>①1学期の授業から、教材を用いて考えた価値項目について、授業後半で自分自身のことに置き換えて考えることが難しい児童が3割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験や自分の考えを想起しやすくするために、授業冒頭で教材を扱う前に、価値項目に関わる「これまでの経験」や「今の価値観」を表出できる発問を取り入れる。</li> </ul>

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>①1学期の授業から、「要旨」や「主題」を読み取ることに課題がある児童が3割程度いるため、叙述を根拠に読み取る力を高める必要がある。</p> <p>②1学期の担任による聞き取りの結果、日常的に読書に親しむ児童の割合は3割である。</p> <p>③令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、漢字や言語事項の習得状況には高得点群と低得点群とに分かれており、二極化していると分析する。また、既習漢字の定着に課題のある児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文では、段落構成と繰り返し使われる重要な言葉を押さえて読むことを繰り返し指導する。物語文では、叙述をもとに登場人物の心情を考えることを大切にす。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室を活用しての読書指導や、選書の仕方を助言することで、これまでの読書経験に関わらず、読書に興味をもてるようにする。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字小テストに向けて練習の徹底を図る。学期のまとめテストで平均80点を超えるように、児童が自分に合った練習方法を見付けることができるように指導・助言をする。</li> <li>・新出漢字で、言葉の意味を調べたり自分で文章を作ったりする。また、ノートや作文等で文章を書く際に、既習漢字を書くよう指導する。</li> </ul>
算数	<p>①令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、「数と計算」に関わる領域の定着に課題がある。特に、あまりのあるわり算や、小数の入ったかけ算及びわり算が苦手な児童が3割程度いる。</p> <p>②令和6年2月実施の市学力定着度調査と単元テストの結果、「量と測定」領域の定着に課題がある。特に単位量当たりの概念理解や、計算が苦手な児童が3割程度いる。</p> <p>③1学期の授業から、文章問題において、根拠なく立式したり、立式した意図やどのように問題解決をしたのか等を理由や根拠を明確に示しながら、説明することに課題がある児童が半数程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業冒頭5分程度の時間で、繰り返し割り算に重点を置いた反復練習を、計算ドリル・ベーシックドリルを活用して行う。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の理解の状況に応じて、既習事項の復習を適宜行う。</li> </ul> <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し式の意味を考えさせ、「なんとなく」ではなく「根拠をもって」立式できるようにさせる。そのために、ペアやトリオで式を考えたり、説明し合ったりする活動や、全体で共通確認した解き方を使って、習熟を図る問題を解いたりする活動を取り入れる。また、間違えた問題は、必ず解き直すようにさせる。</li> </ul>
体育	<p>①1学期の授業から、学び合いの中で、自分の考えや意見を伝えたり、共感したりしながら、課題解決に取り組む姿が多く見られる。</p> <p>②1学期の授業から、自己の課題に応じた練習の場や練習方法を選べる児童が増えた。また、児童同士が助言し合う様子や体育日記への記述から、それぞれの場の意図を理解している児童も4割程度まで増えた。</p> <p>③ICT機器を活用し、自己の動きを振り返ったり、師範動画を確認したりするなど必要感に応じて、選択できるようになってきた。</p> <p>④体育日記への記述から、個人の振り返りを家庭学習で行うことで、自己の課題をじっくりと考えることができ、課題解決に向けて取り組んだことを具体的に書ける児童が5割程度になった。</p>	<p>①②③④に共通する手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器をどのタイミングで使うのか、自己の動きを確認するためにどこから撮影するとよいかを指導者が理解して児童に示し、必要感に応じてICT機器を活用できる児童を8割目指す。</li> <li>・振り返りから、次への課題を設定していくことができるように、言葉掛けをし、自己の課題を適切に理解し解決に向かえる児童を8割目指す。</li> </ul>
道徳	<p>①1学期の授業から、自己の考えの変容に気づき、自分の生き方について多面的・多角的に考えを広げようとするに課題がある。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値項目に関係する考え方について、授業を通して変容が見られたかわかるように、発問やワークシートを工夫する。</li> <li>・十分に自己を見つめることができるよう、ノートやワークシートを活用し、振り返りの時間を確保する。その後、考えを全体で共有し、児童の考えを広げたり深めたりできるようにする。</li> </ul>

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第6学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>①全国学力・学習状況調査の結果、「内容の違いに着目し、情報を整理すること」に関して苦手意識をもつ児童が3割程度いる。情報を整理しながら読むことに課題がある。 ⇒叙述の中から根拠となる表現を探したり、キーワードを捉えたりする力が苦手だと考えられる。</p> <p>②「我が国の言語文化に関する事項」に関して、全国、東京都に比べ正答率が低いことが分かった。読書月間等を活用し、習慣づけて読書に取り組むように指導を続けていく。 ⇒言葉の特徴や使い方に関する事項の調査結果が東京都平均と比べて、6ポイント下回っていた。言語分野においても苦手意識があることが分かった。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここに書いてあるように」といったように、叙述にある根拠をもとに考える練習を繰り返し行う。その際、叙述に線を引かせたり、言葉に印を付けたりさせながら、学習活動を進める。⇒単元末テストにおける「読むこと」における正答率90%を目指す。</li> </ul> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書けること」と「読めること」を分け、繰り返し練習する。</li> <li>・週に一度、15分の読書時間を確保することで、読書を習慣付けられるようにする。</li> <li>・日記や振り返りなど、国語科だけでなく、「書く」活動を日常的に取り入れる。⇒単元末テストにおける「言語」における正答率90%を目指す。</li> </ul>
算数	<p>①全国学力・学習状況調査の結果、「データの活用」に関わる領域に課題がある児童がおおよそ5割いる。</p> <p>②全国学力・学習状況調査と単元テストの結果から、「領域に関わらず、文章問題や記述式で回答する設問に対して誤答する児童が多く、選択式や短答式の設問に比べて正答率が下がる。従って、数直線やグラフから必要となる資料や数値を判断し、設問に対する適切な解答を文章で表現することが苦手だと考えられる。</p>	<p>①②に共通する手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設問に対してどのような解答を求められているのかを的確に把握するための活動として、文章中に下線を記したり、授業において随時確認を行ったりする。また、既習事項である様々な資料の読み取り方の復習を行い、短答ではなく、適切な文章で解答するような活動を取り入れる。⇒単元末テストの正答率75%以上を目指す。</li> <li>・単元において、目標やねらいに対する振り返りを行わせることで自己評価力(メタ認知)を高められるようにする。</li> </ul>
体育	<p>①1学期の授業から、全体的に技能がととても高い。しかし、課題を解決するうえで粘り強くチャレンジしたり、自己を振り返り、課題を客観的に分析したりすることが難しい児童が1割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士でアドバイスし合う活動を積極的に取り入れ、グループでの協同学習に取り組みさせる。</li> <li>・体育カードをデジタル化し、毎時間タブレットを活用して振り返りを行う。</li> </ul>
道徳	<p>①1学期の授業から、授業で扱う価値項目について、自分がこれまでもっていた価値観と、教材を読んだり友達の意見に触れたりすることで発見した新しい価値観とを比較するなどして、多面的・多角的に考えを広げようとすることに課題がある児童が3割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値項目に関係する考え方について、多様な考え方を認め、授業を通して変容が見られたかわかるように、発問やワークシートを工夫する。</li> <li>・価値観を広げたり、自己の生活から振り返ることができるように発問やワークシートを工夫する。</li> </ul>